

第77号 令和8年1月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

新年のご挨拶

東京都立東部療育センター
院長 伊藤 昌弘

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素は、当センターの運営に対し、多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年は電子カルテの更新など課題がありお疲れさまでした。また12月で20周年を迎え、20周年記念式典や祝賀会も盛大に開かれ成功裏に終えることができましたのも、ひとえに皆様のおかげと感謝しております。

さて2026年は江戸時代の八百屋お七の逸話で有名な丙午ですが、火の要素を二重にもち情熱、飛躍、前進する年であり、挑戦や努力が報われる年とされています。旧態依然とした慣習に囚われず、未来を見据えた変革に柔軟に対応し、地域医療の質の向上と、より安全・安心な医療療育提供体制の構築に向けて、全職員が一丸となって邁進していく必要があると思っています。

今後当センターでは、以下の3つの柱を中心に運営していきたいと思っております。

1. 地域で暮らせる施設を目指して
東部療育センター開設1年後の2006年12月に国連で採択された障害者権利条約を2014年に日本は批准し国内法の整備を進めました。2022年に国連障害者権利委員会の審査・

勧告を受け、その中では当センターのような入所施設は『障害児者が地域で暮らす』のとは真逆と考えられ、脱施設化が謳われております。親亡き後を考える脱施設化に不安が残りますが、私たちは施設に入所しても地域で暮らせるようにすることが必要だと思います。そのためには、地域の一員として利用者さまも職員も関わっていく必要があります。地域で開催されるイベントに参加したり、当センターで行われる行事に参加していただくなど地域の方と積極的に関わっていききたいと思います。

2. 医療DXの推進とAI技術の導入
「医療DX令和ビジョン2030」の実現に向けて、当センターでも医療DXを推進していきたいと思っています。DXでは生成AI技術で文書作成やデータ分析、さらには診断支援などこれまで医師や看護師が費やしていた時間を大幅に削減し、より患者様と向き合う時間、すなわち「対話」の時間を増やすことが可能となると言うことが言われておりますが、まずはペーパーレス化を図り、業務効率の改善と医療の質の向上を図っていくことから始めたいと思っています。

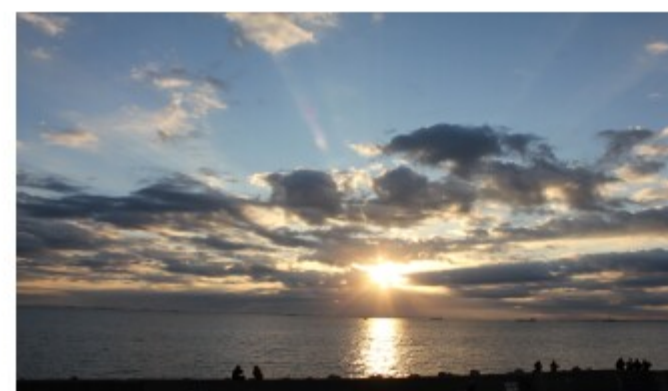
3. 働き方改革と人材育成
医療の質の向上と持続可能な医療提供体制の構築には、職員一人ひとりが心身ともに健康で、生きがいを持って働ける環境が不可欠です。当センターでは働き方改革を推進し、また今までは以上に研修制度の充実を図り、職員のスキルアップを支援します。職員の成長がひいては当センターの成長、そして利用者さまや患者さまへの安心・安全な医療や療育の提供、さらに地域医

療の発展に繋がるものと信じております。

結びに

未曾有の少子高齢化社会を迎え介護者の高齢化や医療的ケアの重症化などの問題から、当センターの役割はますます重要になると考えております。私たちは「丙午」の前進力と活力を胸に当センターの使命を果たすべく、全職員、決意を新たにしていきたいと思います。

本年も職員をはじめとして地域の皆様信頼され、選ばれた療育センターを目指し、一層の努力を重ねてまいります。皆様にとりまして、2026年が健康で幸多き一年となりますよう心よりお祈りするだけでなく、幹部一同努力していきたいと思っていますことをお伝えし、年頭のご挨拶とさせていただきます。



若洲から見た2026年初日の出
(撮影：益山副院長)

クリスマス会

センターで行われたクリスマス会です。令和7年度クリスマス会が12月に開催されました。ご家族・後見人をはじめ多くの参加があり、みんなで楽しめる工夫を凝らした会になりました。点灯式のイルミネーションに魅了され、サンタさんのプレゼントで盛り上がるなど、素敵なクリスマスを過ごせました。(療育部)



3階西病棟

ゲーム大会を行い、クリスマスのイルミネーション点灯式の権利争奪ビンゴ大会では大いに盛り上がりました。



3階南病棟

部活動(スノーズレン部・新聞部・園芸部・美術部・軽音楽部)の発表を皆様それぞれ楽しめました。



2階西病棟

魔法学校を舞台に3つの授業を楽しみました。皆で心を合わせ、とてもあたたかな会になりました。





2階南病棟

利用者さまと職員がマツケンサンバの曲に合わせてダンスを行い、音楽と光をテーマに賑やかに笑顔あふれる会になりました。



通所

4日間にわたりクリスマス会を開催し点灯式やコンサート、演奏やダンスなど楽しい時間をすごしました。



行事食の紹介

栄養科

12月1日は開設記念日でした。栄養科からは、「マグロ・サーモン丼、煮しめ、すまし汁、紅芋モンブラン」をご用意してセンター20周年をお祝いしました。刺身は衛生上の観点から、提供は冬期に限られているため、久しぶりの刺身に皆さんとても喜んでいました。

18・19日は病棟クリスマス会に合わせて、「鶏胸肉のガトー仕立て」と「ミートローフ」でクリスマスを演出しました。美味しさはもちろんのこと、見た目も楽しんでいただけるよう、盛り付けも工夫しました。24日のクリスマススイブには毎年恒例のローストチキンとおやつにはロールケーキを提供しました。



お知らせ

外壁工事了

令和7年5月より実施しておりましたセンターの外壁工事は、予定どおり終了いたしました。

工事期間中は、騒音や振動、駐車場の利用制限に加え、安全確保のためベランダの利用を制限させていただくなど、利用者の皆様およびご家族の皆様にはご不便をおかけいたしました。

皆様のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。



東部あれこれ

10月から12月のセンターの動きです。

【10月】

月の前半は夏のような残暑の日もあった一方で、月後半にかけてはぐっと涼しくなり、朝晩の寒暖差を感じる気候でした。センターでは特別支援学校の修学旅行や社会見学の医師やスタッフが付き添いました。

【11月】

月初めに職員全体でインフルエンザの予防接種を受け、今後の流行時期に備えました。

2週目から月末にかけて、文京学院大学、武蔵野看護大学の看護実習生を受け入れました。

5月から始まったセンターの外壁工事がほぼ終了し、足場やシートが外され、明るい日差しとすっきりとした外観が半年振りに現れました。

【12月】

センターでは開設20周年を迎え、1日の開設記念日には、利用者の方には特別メニューの昼食を楽しんで頂きました。

また5日には多数のご来賓をお迎えして記念式典を執り行い、次の30周年に向けて更なる発展を職員一同で誓いました。

10日から19日にかけて病棟・通所でクリスマス会を開催しました。ご家族やボランティアの方などにも参加されて楽しい一時を過ごしました。

(事務長 大野)



創立20周年記念式典・祝賀会

令和7年12月1日、当センターは開設20周年を迎えました。12月5日に浦安のホテルオークラ東京ベイにて、来賓等64名と職員等121名、合わせて185名が集う東部療育センター開設20周年記念式典・祝賀会が行われました。

記念式典では、伊藤院長の当センター20年の歩みを振り返っての主催者挨拶から始まり、東京都福祉局障害者施策推進部長梶野京子様より開設者挨拶を、ご来賓を代表して江東区長 大久保朋果様よりご祝辞を頂戴しました。その後、倉田理事長からお礼の挨拶を申し上げ、記念式典を終了しました。祝賀会は、益山副院長が開会の挨拶を行い、椎原名誉院長の乾杯から始まり、和やかに歓談が進みました。開設からこれまでの20年間を振り返るスライドが上映されるなかで、家庭科部と軽音楽部のクラブ紹介が行われ、軽音学部にはバンド演奏

で盛り上げてもらいました。また余興として、くじ引き大会を楽しみました。続いて、永年勤続表彰式が行われました。勤続20年を迎えた職員13名の内、当日出席していた11名に伊藤院長より表彰状が授与されました。職員を代表して渡邊事務次長より、開設当初よりご指導いただいた皆様に感謝を伝える挨拶がありました。



最後は佐野療育部長が、今後も良い療育、良い医療、良い看護を提供し続けて参りますと決意を表明し、閉会の挨拶を行いました。

あっという間の2時間半でしたが、これまでの苦勞も吹き飛ばす素晴らしい20周年記念式典・祝賀会となりました。次の設立30周年にむけて、全職員一丸となって更に頑張っ参ります。

(事務長 大野)

【編集後記】

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。東部療育センターは開設から20年を経過し、21年目を迎えました。気持ちも新たに、今年も利用者やご家族の方々に、より良い療育、医療、看護を提供出来るよう努めてまいります。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ